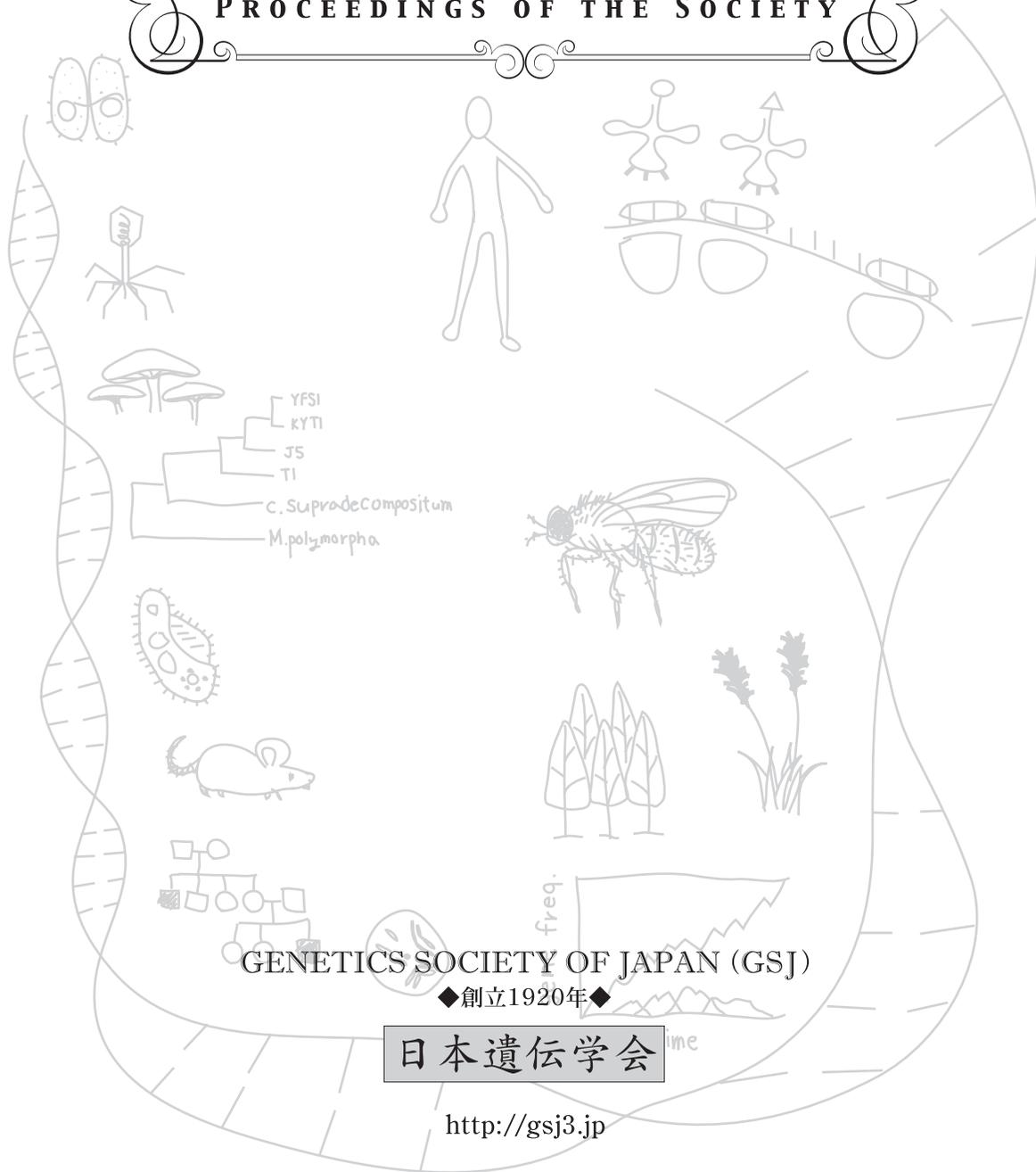


SUPPLEMENT TO GENES GENET.SYST.(2015)90(6)December 2015

GSJ

コミュニケーションズ

PROCEEDINGS OF THE SOCIETY



GENETICS SOCIETY OF JAPAN (GSJ)

◆創立1920年◆

日本遺伝学会 inc

<http://gsj3.jp>

目 次 頁

	<p>2016年度日本遺伝学会年会費ご納入のお願い 3</p> <p>大会ニュース (その2) 4</p> <p>惜別 故 牧野耕三君を偲んで 中田篤男 5</p> <p>日本遺伝学会木原賞および奨励賞候補者推薦のお願い 7</p> <p>2016年度日本遺伝学会木原賞候補者推薦書</p> <p>2016年度日本遺伝学会奨励賞候補者推薦書</p> <p>第16回遺伝学談話会報告 12</p> <p>平成28年度持田記念学術賞候補者推薦依頼について 13</p> <p>本会記事</p> <p>会員異動 14</p>
--	--

2016年度日本遺伝学会年会費ご納入のお願い

平素より皆様には日本遺伝学会の発展に対し、いろいろとご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、2016年度日本遺伝学会年会費を、下記郵便振替口座までご納入下さいますよう、よろしくお願いたします。なお、年会費のご納入がクレジットカードにてできるようになりました。ご利用方法の詳細につきましては学会 HP の各種手続きをご参照くださいますようお願いいたします。

- ・ 普通会員 2016年度年会費 10,000円

(注) 定年退職して常勤職でなくなったことを申し出た場合は6,000円

- ・ 普通会員（学生） 2016年度年会費 6,000円

(注) 普通会員（学生）の方は、振替用紙の通信欄に、指導教員の署名が必要です。
学生とは、学部学生と大学院生です。

●郵便振替の場合

口座名義 日本遺伝学会

口座番号 00110-7-183404

●他の金融機関（ATM）から、ゆうちょ銀行の口座へ振込・振替をされる場合

***** 他金融機関からの振替口座番号 *****

・ 店 名 〇一九（ゼロイチキユウ）

・ 預金種目 当座預金

・ 口座番号 0183404

*お手数料に420円かかります。

日本遺伝学会第88回三島大会ご案内

先に案内致しました通り、本年度の大会は日本大学国際関係学部（三島）を会場に開催されます。

会 場：	日本大学国際関係学部 三島駅北口校舎（〒411-8555 静岡県三島市文教町2-31-145）
会 期：	2016年9月7日（水） 9：00 受付開始予定 8日（木）、9日（金）、10日（土）
企 画：	一般講演 9月7日（水）午前9：30 講演開始予定 8日（木）午前9：00 講演開始予定 9日（金）午前9：00 講演開始予定
	ワークショップ 9月7日（水）午後、9日（金）午後 ※一部はシンポジウム
	ナイトゼミナール 9月7日（水）講演終了後
	プレナリーワークショップ 9月8日（木）午後
	総会・授賞講演等 9月8日（木）午後
	懇親会 9月8日（木）夜
	市民公開講座 9月10日（土）午後

- 申し込み：参加と講演の申し込みは例年通りホームページからとします。
- 講演申し込み・要旨受付締め切り：6月21日（火）
- 事前参加の申込締め切り：7月12日（火）
- 宿泊予約申込締め切り：8月8日（月）

【第88回大会参加費、懇親会費】

	事前登録（7月12日まで） 8月8日までお振り込みください		当日登録	
	参加費	懇親会費	参加費	懇親会費
一般会員	8,000円	6,000円	9,000円	7,000円
学生会員	無料	4,000円	無料	5,000円
一般非会員	10,000円	7,000円	11,000円	8,000円
学生非会員	無料 (予稿集は当日実費販売)	4,000円	1,000円 (予稿集は当日実費販売)	5,000円

- *参加費や懇親会費の支払いは、従来通り郵便払込取扱票による方法と、クレジットカードによる支払いも利用できます。
- *大会参加費、懇親会費を郵便振込される場合は、払い込まれた方が特定できるように一人1枚ずつ別々の払込取扱票をお使いください。
- *交通の便の良いホテルを遺伝学会特別料金で準備しました。大会ホームページから予約できるようにしますので是非、ご活用ください。

★ワークショップへの応募は締め切りしました。ご応募いただきありがとうございました。各提案の開催枠（時間帯）は今後下記大会 HP に掲載いたします。

【大会 HP】 <http://gsj3.jp/taikai/88taikai/>

皆様ふるってご参加下さいますようお願い申し上げます。

日本遺伝学会第88回大会組織委員会
大会委員長 桂 勲（国立遺伝学研究所）
連絡先：日本遺伝学会第88回大会事務局
E-mail: iden88@aeplan.co.jp

惜 別

故 牧野耕三君を偲んで

大阪大学名誉教授、福山大学名誉教授 中田篤男

牧野耕三君（防衛大学校教授）は、2015年9月16日に逝去された。享年62歳。

1980年の夏を過ぎたころのある日でしたか、牧野君が私どもの研究室（大阪大学微生物病研究所化学療法部門）に、ふらっと現れて「大学院を受験したいが何処の研究室をしようか、研究内容を尋ねて回っている」とのこと。その頃、私たちは、開発されたばかりの遺伝子組換え技法を利用して、大腸菌のアルカリ性ホスファターゼ（APase）遺伝子の発現機構の解析を始めた所でした。その話に興味を示した彼は、「この教室を受験しますのでよろしく。僕はやりませよ」といって帰っていった。彼は、小学生か中学生の頃に理科の実験で賞を貰った、ということでした。

そして、翌81年4月、大阪大学大学院医学研究科博士課程（微生物生理学専攻）に入学しました。入学すると、すぐに細菌学の基本テクニックをマスターし、その上、外国の論文に掲載された遺伝子組換えの様々なテクニックも次々に自分のものにして行きました。それらの結果は、「二成分制御系」の解明となって実を結びました。彼が最初に宣言した通りでした。

1985年、博士課程修了（医学博士）後、助手に、そして、助教授（1994年）を経て、2002年、防衛大学校の教授に赴任されました。この間、若手研究者に贈られる日本分子生物学会奨励賞（1985年）と、日本遺伝学会奨励賞（1992年）とを受賞しました。

当時、彼から教わり、現在、各地で活躍して居られる方々の思い出話を載せて追悼の辞とします。

○牧野先生は、真面目でおとなしそうだったが、かなりやんちゃの学生で、長い髪を靡かせ、銜えタバコでバイクを飛ばして通学、実験室での慎重な行動との格差に驚いた。当時、研究室一丸となって大腸菌 APase の遺伝子群の解析に取り組み、昼夜を問わず実験をしていたが、その中心的存在が牧野先生だった。当時の電気泳動装置は原始的で、塩基配列の解析は 4 種類の塩基に分けて泳動した X 線

フィルムのオートラジオグラムを目視で読み取りながらパソコンに入力していた。それを先生は足踏みで入力する装置を開発した。これで塩基配列の解析が飛躍的にスピードアップした。

厳しかった先生は、研究を離れると温厚な人柄で休み時間などはギターを弾きながら吉田拓郎の“イメージの詩”を歌っておられた。また、先生は直情的でよく人と衝突することも多かったが清廉の士であった。彼の人柄に惹かれて集まった弟子は少なくない。（雨村光子 [文部技官]）

○私が阪大微研に入った時、少人数の研究室でしたが、牧野さんは研究の中心的存在で、ものすごい勢いを感じました。毎日昼食も一緒に行きました。夕方のお茶の時間には全員で集まるなど、お互いがすごく近い距離で動いていました。私は牧野さんから遺伝子操作法をいろいろ習いましたが、彼の実験は職人技のように、決めた条件通りの結果が得られました。例えば、1リットルの大腸菌の培養から始めて、精製したプラスミドを一定量のバッファーに溶かすと、定量しなくても予定通りの濃度になっていました（遺伝子操作の初期ですから、もちろん今のようなキットの無い時代です）。牧野さんは大変怖い先輩で、何度も怒鳴られましたが、その後で必ずフォローしてくださる優しい面もありました。牧野さんの研究に対する執念を見習って、多くのことを学ばせて頂いた。

（石野良純：九州大学 教授 [研究生]）

○1985年春、私は、大阪大学医学研究科修士課程に入学し、分子遺伝学の最先端を走っていた微研・化学療法部門に配属されました。当時、研究室の緊張感は凄まじく、殺気さえも感じるほどでした。その中心が助手になりたての牧野耕三先生で、彼の一つ一つの実験が真剣勝負そのものだったからです。私の研究テーマは、牧野先生のそれとは異なっていたため、普段はほとんど会話を交わしたことがありませんでした。本当は、怖くて口も利けなかったというのが正直なところですが、

しかし、私の実験が上手くいかず四苦八苦しっていると、いつもスーと手を差しのべてくださったのは牧野先生でした。気づけば、Sanger 法も Maxam-Gilbert 法も、foot printing も primer extension もみんな牧野先生に教わりました。ありがとうございます。

(岩崎博史：東京工業大学 教授
[修士・博士課程、助手])

- 30年前の牧野先生は、まだ若くて型破りな研究者でした。次々と新しい実験を成功させて、その腕前は、まさにゴッドハンドと思えるほどでした。お蔭で私は、まだ黎明期にあった分子生物学の最前線を学ぶことができました。直接ご指導いただいた内容が私の財産となり、その後の研究生生活を続けることができたことには、とても感謝しております。

(河本 健：広島大学 教授 [博士課程])

- 博士課程の4年間お世話になりました。M13のキットを使ったDNAシーケンシングの方法を牧野先生に教わったのは博士課程1年の後半でした。卒業後、就職先から、同時期に英国に留学していたこともあります。今、ふと思い出したのは、天秤のところに書いてあった「使った後は掃除しろ！字が読めないのか！」という牧野さんの力強い文字です。何事にも熱い方でした。

(山田雅巳：国立衛研 室長 [博士課程])

- 先生の全ての愛情が学術研究にあり、その名誉は日本遺伝学会と分子生物学会、そして世界の微生物学者が永遠に覚えてくれることでしょう。私の尊敬する、素晴らしい牧野先

生！安らかにお眠りください。

(金守基：大韓民国 建國大學 教授
[研究生、博士課程])

- 私が大学院の試験に失敗し、不出来な研究生だったにも拘らず、先生は厳しくしかし愛情をもって私を指導して下さいました。阪大微研で私が大学院生として無事に博士の資格を得られたのも、そして今、研究者として過ごさせて頂いているのも、すべて牧野先生のおかげです。今年、8月のお盆明けに実験に関してメールで私に尋ねてこられた事もあったので、牧野先生の訃報は本当に急でした。亡くなって1か月たった今でも先生の事を思い出すと今でも目頭が熱くなります。一緒にお酒を飲んだ時には私に対して、「人生とは何かをよく考える様」語って下さった事を思い出します。先生は私にとっての人生の師匠であり、第二の父親のような存在でした。

(横山勝志：横浜薬大 講師
[研究生、修士・博士課程])

彼は、熱血漢であると同時に、清廉潔白な人でした。近年、STAP細胞をはじめとして、データの改ざんが各界で問題となっています。彼は、このような行為に対して極めて敏感で、かけら程の不正も許しませんでした。60歳の誕生日を目前にして黄泉の国へと旅立ち、早すぎる他界でした。もっともっと研究を続けたかったことでしょう。志半ばで、この世を去らねばならなかった彼は、どんなにか残念だったことか。ご冥福を祈るばかりです。合掌

日本遺伝学会木原賞および奨励賞候補者推薦のお願い

下記の規程に添って2016年度木原賞および奨励賞候補者推薦をお願いします。

【推薦書作成要領】

本誌に掲載された様式に従って作成してください。なお、同様式は遺伝学会ホームページからダウンロードしていただけます。いずれも用紙はA4判を使用して下さい。

(木原賞) 候補者の主な発表論文のリストを別紙にて作成し、うち主要な論文5編3部ずつを郵送して下さい。また、候補者推薦書ファイル、業績リストファイル、論文のPDFファイルをメールの添付ファイルにてお送りください。

(奨励賞) 1. 候補者の主な発表論文のリストを別紙にて作成し、うち主要な論文2編3部ずつを郵送して下さい。

2. 自薦の場合も同様式に従って作成して下さい。

(2010年から年齢制限はなくなりました)

また、候補者推薦書ファイル、業績リストファイル、論文のPDFファイルをメールの添付ファイルにてお送りください。

【提出期限】

2016年5月16日（月）必着

提出先：〒411-8540 三島市谷田1111 国立遺伝学研究所内
日本遺伝学会 Tel & Fax 055-981-6736

日本遺伝学会会長 遠藤 隆

電子ファイル送付先：Email: japgenet@nig.ac.jp

*なお、木原賞および奨励賞の受賞者には当学会誌 *Genes & Genetic Systems* に英文総説の執筆と、その年に開催されます大会で受賞記念講演をお願いしております。

日本遺伝学会学会賞および奨励賞に関する規程（抜すい）

(目的)

遺伝学の進歩を促し、すぐれた研究業績を一般に知らせるために学会賞および奨励賞を設定する。

(賞の種類)

1. 日本遺伝学会木原賞
遺伝学の分野ですぐれた業績をあげた者（原則として会員）に授与する。
2. 日本遺伝学会奨励賞
遺伝学の特定の分野ですぐれた研究を活発に行い、将来の成果が期待される会員に授与する。

(賞の内容)

1. 日本遺伝学会木原賞
賞状、メダルおよび副賞としての賞金からなる。
2. 日本遺伝学会奨励賞
賞状および副賞としての賞金からなる。

(賞の選考)

賞の選考は下記に定められた選考委員会と選考方法によって行う。

1. 選考委員会
全会員を対象として評議員会により選出された若干名と、これに会長が加わり、選考委員会を構成する。会長以外の選考委員は任期を2年とし、連続して2期（4年）をこえ選考委員としてとどまることはできない。選考委員会の委員長は会長がつとめるものとする。
2. 選考方法
会員から推薦された候補者について選考委員が慎重に審査を行い、受賞者を決定した上で評議員会の承認を得るものとする。日本遺伝学会木原賞受賞者については原則として各年1名とするが、適当な候補者がいない場合は授賞は行わないものとする。
日本遺伝学会奨励賞については各年2名以内を選ぶものとする。

附 則

昭和57年11月20日	日本遺伝学会総会承認
昭和60年10月14日	一部改正
昭和63年2月6日	一部改正
1989年10月14日	一部改正 日本遺伝学会総会承認
1992年10月23日	一部改正
2005年4月4日	一部改正
2009年9月17日	一部改正 日本遺伝学会総会承認

2016年度日本遺伝学会奨励賞候補者推薦書

2016年 月 日

推 薦 者 (自薦の場合、職名、連絡先は不要)	
(ふりがな) 氏 名	印
職 名	
連 絡 先	〒 TEL: FAX: E-mail:

受 賞 候 補 者	
(ふりがな) 氏 名	(西暦) 年 月 日生
職 名	
連 絡 先	〒 TEL: FAX: E-mail:

【略 歴】	
-------	--

【遺伝学会における活動歴】	
---------------	--

受賞候補者（ ）氏の推薦理由等	
研究題目	(和文)
	(英文)
【推薦理由】	
(紙面不足の場合は別紙 [A4 判] に記載し、添付して下さい)	

注：(1) 候補者の主な発表論文のリストを別紙（紙は A4 判を使用）に掲載し、うち主要な論文 2 編 3 部ずつを郵送して下さい。ここに示した推薦書に必要な情報が記載してあれば、用紙（A4 判）は別紙でも結構です。

(2) 自薦の場合もこの用紙を使ってください。

提出期限： 2016 年 5 月 16 日（月）必着

提出先： 〒411-8540 静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所内 日本遺伝学会

TEL & FAX 055-981-6736

第16回 遺伝学談話会報告

日 時：2015年12月8日午後5時～7時

場 所：九州大学病院キャンパス総合研究棟105号室

第16回遺伝学談話会は九州地区評議員の一柳を世話人として、福岡市・九州大学のキャンパス内で行われました。多細胞生物では生殖細胞が遺伝の根幹を支えています。今回の談話会ではそのような生殖細胞の生き様を改めて見直そう、理解しようという趣旨のもと、九州大学の林克彦先生と大野みずき先生にご講演いただきました。

まずはじめに、林先生による「生殖細胞の成り立ちと体外再構築」と題した講演がありました。林先生は世界で初めてマウス（研究用ハツカネズミ）の胚性幹細胞（ES細胞）から培養皿の中で生殖細胞を誘導する系を確立された方です。この方法ではES細胞だけでなく、人工多能性幹細胞（iPS細胞）からでも生殖細胞を誘導することができます。林先生の御講演はヨーロッパで最近開かれたシロサイの保存に関する会議の話からでした。特にキタシロサイは世界にあと3頭しかおらず、絶滅が危惧されており、iPS細胞から生殖細胞の誘導方法が期待されているそうです。その後、マウスの実験系の確立の話へと展開されますが、緻密に作成されたプロトコールに従って生殖細胞を誘導する過程や各段階の特徴を紹介いただきました。生殖細胞は細胞数が少なく、採取も困難ですが、この方法が確立したことで生殖細胞の発生プロセスの理解が進むだろうという期待を持たせるものでした。生殖細胞は受精後に全能性を持つ唯一の細胞ですので、全能性獲得機構の解明にも繋がるでしょう。林先生の発表では、こともなげに一つ一つの誘導ステップが書かれていましたが、そこに至るまでにはステップごとに多くの条件検討が必要だったことを察すると、改めて林先生の研究のパワーに圧倒されました。また、生殖細胞の性決定についてのお話もあり、生殖巣（精巣または卵巣）の性が決まり、続いて生殖細胞（精子または卵子）の性が決定される過程について紹介されました。性決定の分子機構は実は奥が深い問題で大変興味深いものでした。



続いて大野みずき先生による「親から子へ遺伝情報が伝達される時、その品質はどのように維持・管理されているか」と題した講演がありました。大野先生はDNA損傷の修復機構について研究されており、今年ちょうどDNA修復機構の解明に寄与した3人の方がノーベル化学賞を受賞したこともあり、そのタイムリーな話題も含めて講演していただきました。私たちの体は細胞あたり日々7万カ所くらいゲノムDNAが損傷を受けているようで、このような損傷は修復しないと変異を起こすと考えられます。大野先生は酸化DNAに由来する損傷



の修復に関わる3つの遺伝子に欠損を持つマウスを作出し、8世代にわたって観察したところ、生殖細胞系列には1世代あたり千個以上の変異が生じているとのことでした。この変異率は野生型の数十倍になります。3つの遺伝子が正常に働いているおかげで、私たちのゲノムは正確に維持されていることが実感できました。この系統では世代を経るごとに異常な表現型を示す個体が多くなり、平均寿命も短くなるそうです。損傷修復機能がないと変異が世代を越えて蓄積され、個体集団に甚大な影響を及ぼすと言えるでしょう。一方、変異は種の存続だけでなく、進化にも関係しており、大気中や細胞内の酸素濃度、ミトコンドリア活性等が多細胞生物の進化過程にどのように寄与してきたのか、興味が深まるものでありました。

参加者は約60名で、その7割くらいは大学生や大学院生でした。また、一般の方も数名参加されていました。広い教室で行いましたが、質疑応答の時間になると会場の熱気は高い天井まで届く勢いで、時間をオーバーするほど盛り上がりました。細胞生物学的な部分と遺伝学的な部分の両面を持った今回の談話会でしたが、それぞれの面白さや共通性について発信できたのではないかと思います。（一柳健司）

平成28年度持田記念学術賞候補者推薦依頼について

推薦を希望される方は推薦書1部および別刷論文10報以内各1部およびその写し11部を郵送にて、2016年6月22日(水)(学会内で選考のため財団の提出締めきりより、通常は1ヶ月早く締めきる。)までに学会事務局宛にご送付ください。

(学会問い合わせ先)

TEL 055-981-6736 FAX 055-981-6736

E-mail: japgenet@nig.ac.jp

担当: 鈴木

平成28年度持田記念学術賞候補者の推薦要領

1. 持田記念学術賞の対象

本財団は、生命科学を中心とする医学、薬学及びこれらに関連する物理学、化学、工学、生物学等の先見的独創的研究を育成し、かつ、これらの成果を総合して医療をはじめとするヘルスケアに応用し、もってわが国の医療及び国民の保健の向上に資することを目的としております。持田記念学術賞はその一環として創設された冠となる賞であり、次の6項目の研究分野で、研究の進歩発展のため顕著な功績のあった研究者に贈呈致します。

- (1) バイオ技術を基盤とする先端医療に関する研究
- (2) バイオ技術を基盤とするゲノム機能/病態解析に関する研究
- (3) 免疫/アレルギー/炎症の治療ならびに制御に関する研究
- (4) 循環器/血液疾患の病態解析/治療制御に関する研究
- (5) 創薬・創剤の基盤に関する研究
- (6) 創薬の臨床応用に関する研究

2. 副賞

1件1,000万円(2件以内)

3. 推薦人

- 1) 本財団より推薦依頼を受けた学会
- 2) 本財団の理事又は諮問委員
- 3) 持田記念学術賞の既受賞者

※1 推薦人は1候補者に限ります。

4. 推薦方法

推薦書に必要事項を記入し、署名・捺印の上、本財団あてに送付してください。

5. 締切期日

平成28年7月22日(金) (当日までの消印有効)

6. 選考の方法

選考作業は選考委員会が行い、平成28年9月9日(金)の本財団理事会に諮り決定いたします。

7. 褒賞金の贈呈式

平成28年11月10日(木)

8. 提出先及び問合せ先

財団法人 持田記念医学薬学振興財団 事務局

〒160-0003 東京都新宿区本塩町7番地6 四谷ワイズビル

Tel. (03)3357-1282

Fax. (03)3357-1264

E-mail: zaidan@mochida.co.jp

URL: <http://www.mochida.co.jp/zaidan/index.html>

◆ 会 員 異 動 ◆

新入会・再入会

早 川 浩	814-0193	福岡市早良区田村2-15-1 福岡歯科大学・機能生物化学講座・生化学分野
Buzas Diana	305-8572	茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学生命環境系, 遺伝子実験センター
河 野 真 二	700-0005	岡山県岡山市北区理大町1-1 岡山理科大学・生物化学科・分子遺伝学研究室
中 馬 新一郎	606-8507	京都府京都市左京区聖護院川原町53 京都大学再生医科学研究所発生分化研究分野

(連絡先自宅のため不掲載)
辻本由美

訃 報

牧 野 耕 三 (国内会員) 2015年9月16日にご逝去されました。享年59歳

謹んで、哀悼の意を捧げます。

退 会

森木省伍, 神村麻友, 松永 航, 降旗裕子, 荻沼一男, Suntronpong Aorarat, 岩坪美兼, 石川 明, 西村美起, 佐藤 滋, 秋本頼子, 奥村啓祐, 河村富士夫, 高橋三保子, 植木晃弘, 前田青史, 間野修平, 岡田清孝, 谷村禎一, 小澤良基, 白川文教, 渡邊昌秀

寄贈図書・交換図書

科学	Vol. 85	No. 6	(2015)
科学	Vol. 86	No. 1-4	(2016)
統計数理	Vol. 63	No. 1-2	(2015)
CHINESE QINGHAI JOURNAL OF ANIMAL AND VETERINARY SCIENCES	Vol. 45	No. 6	(2015)
CHINESE QINGHAI JOURNAL OF ANIMAL AND VETERINARY SCIENCES	Vol. 46	No. 1	(2016)
Chinese Journal of nature	Vol. 37	No. 4-6	(2015)

日本遺伝学会会則

- 第1条 本会は日本遺伝学会と称する。
- 第2条 本会は遺伝に関する研究を奨め、その知識の普及を計ることを目的とする。
- 第3条 本会は事務所を静岡県三島市谷田、国立遺伝学研究所内におく。
- 第4条 本会に入会しようとするものは住所、氏名および職業を明記して本会事務所に申し込むこと。
- 第5条 本会会員は普通会員、機関会員、賛助会員および名誉会員とする。毎年普通会員は会費10,000円（ただし在学証明書またはそれに代わるものを提出したとき、あるいは定年退職して常勤職でなくなったことを申し出たときは6,000円）を、機関会員は15,000円を、賛助会員は1口（20,000円）以上を前納すること。会員で会費滞納1年におよぶものは資格を失うものとする。
- 第6条 本会は次の者を総会の決議により名誉会員にすることができる。
本会に功労のあった者、外国の卓越した遺伝学者。
- 第7条 本会は隔月1回遺伝学雑誌を発行して会員に配布する。
- 第8条 本会は毎年1回大会を開く。大会は総会と講演会とに分け、総会では会務の報告、規則の改正、役員選挙および他の議事を行い講演会では普通会員および名誉会員の研究発表をする。
大会に関する世話は大会委員若干名によって行い、大会委員長は会長が委嘱する。大会は臨時に開くことがある。
- 第9条 本会は各地に談話会をおくことができる。
- 第10条 本会は会長1名、幹事若干名、会計監査2名の役員、および評議員若干名をおく。
1) 会長は本会を代表し、会務を統轄する。
2) 会長は、評議員が全普通会員の中から選出した複数の候補者から普通会員による直接選挙によって選出される。
3) 評議員は、普通会員による直接選挙で選出される。
4) 幹事は、会長が推薦する候補会員を評議員の過半数が承認することにより選任される。
5) 会計監査は、会長が推薦する候補会員を評議員の過半数が承認することにより選任される。
6) 会長は評議員会を招集し、その議長を務める。幹事は評議員会に出席するものとする。
7) 評議員会は会員を代表して、事業計画、経費の収支、予算・決算、学会誌の発行、大会の開催、その他重要事項について審議し、出席評議員の過半数をもって議決する。
8) 会長ならびに幹事により幹事会を構成し、会長がこれを代表する。
9) 幹事会は、学会の関連事項を論議し評議員会に諮ると共に、会務を執行する。
10) 会計監査は、学会の会計を監査する。
- 第11条 役員および評議員の任期は2カ年とする。会長および評議員は連続三選はできない。
- 第12条 本会の事務年度は暦年による。
- 付則 平成7年10月13日に第5条を改正し、平成8年1月1日から施行する。
- 付則 平成21年9月17日に第5条を改正し、平成22年1月1日から施行する。

<p>Genes & Genetic Systems 第90巻6号（付録） 2016年4月20日発行 非売品 発行者 遠藤 隆 印刷所 レタープレス株式会社 Letterpress Co., Ltd. Japan 〒739-1752 広島市安佐北区上深川町809-5番地 電話 082 (844) 7500 FAX 082 (844) 7800</p> <hr/> <p>発行所 日本遺伝学会 Genetics Society of Japan 静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所内</p>	<p>学会事務取扱 〒411-8540 静岡県三島市谷田・国立遺伝学研究所内 日本遺伝学会 http://gsj3.jp (電話・FAX 055-981-6736 振替口座・00110-7-183404 加入者名・日本遺伝学会)</p> <hr/> <p>国内庶務、渉外庶務、会計、企画・集会、将来計画、編集などに関する事務上のお問い合わせは、各担当幹事あてご連絡下さい。 乱丁、落丁はお取替えます。</p>
--	---